

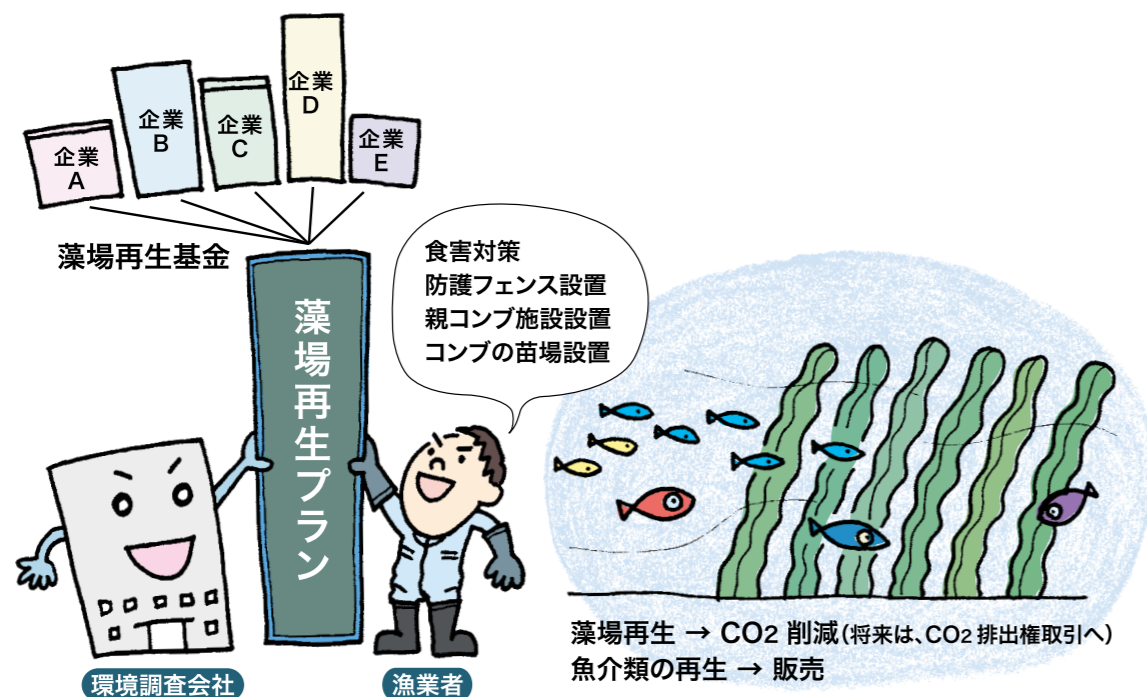


CSRと一体化した藻場再生ビジネスモデルの構築

※CSR: 企業の社会的責任



- 藻場再生により水産資源の減少を阻止
- 「藻場再生プラン」の作成により企業の出資を誘因



シナリオ

- 海藻が繁茂する藻場は、魚介類が産卵・生育する場所であるが、生活圏の拡大による水質汚濁や埋立などにより、近年は減少傾向にあった。
- 藻場の減少は、水産資源の減少につながるため、これに危機感を抱いた漁業者は、藻場の再生を検討していた。
- 藻場の CO₂ 吸収力は、地球温暖化防止という環境改善にも効果があるという研究結果があったことから、環境調査会社と連携して、藻場を再生するためのビジネスモデルを構築することとなった。
- 藻場再生の資金を調達するため、「藻場再生プラン」を作成し、水産資源の保護に理解のある企業に対し、CSRの一環として、「藻場再生基金」への出資を募ることとした。

役割

漁業者

- 漁労スキルや水産知識を活かし、藻場再生の障壁となる「磯やけ^(注)」や「食害」の解消に効果的なプランを環境調査会社と共同で作成する。
- プラン作成後は、海藻の保護・増殖作業のほか、藻場食害の原因となるウニ等の除去作業を行う。

環境調査会社

- 周辺海域の環境調査を実施し、調査結果を分析して藻場再生に効果的なプラン作りに参画する。
- 調査結果では、藻場再生による水産資源の増加割合や CO₂ 削減効果の数値的な裏付けを行い、「藻場再生プラン」に具体性を付与する。

注: 磯焼けとは

- 浅海の岩礁・転石域において、海藻の群落(藻場)が季節的消長や多少の経年変化の範囲を越えて著しく衰退または消失して貧植生状態となる現象をいう。
- 磯焼けは、一旦、発生すると、藻場が回復するまでに長い年月を要するため、磯根資源の成長不良や減少を招き、沿岸漁業に大きな影響を及ぼすことがわかっている。

効果

漁業者

- 藻場再生により、魚介類の産卵・成育場所が確保され、漁獲量が増加することにより、漁業収入が向上する。
- 食害防止のために除去したウニ等の畜養による売上げ増加も期待できる。

環境調査会社

- 藻場再生についての経験知を集積することにより、藻場再生事業のほか、CO₂ 削減を視野に入れた新たな事業領域の拡大が期待できる。

副次的効果

藻場再生基金の出資企業

- 藻場再生基金への出資によるCSRで企業のイメージアップが期待できる。